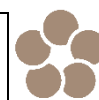




『こもろのひろば こぼれ話』



～郷土の事柄をわかりやすく紹介するコーナーです～

「島崎藤村の故郷 馬籠宿」

2022年は島崎藤村の生誕150年にあたる年として、小諸図書館でも藤村に関する様々なイベントを開催しました。特に7月には藤村とゆかりのある岐阜県中津川市と神奈川県大磯町の図書館とコラボして、藤村についての連携展示をさせていただきました。中津川市は人口約7万5千人、岐阜県南東部の長野県境にある市で、平成17年(2005)に近隣町村と合併して現在の規模の市となりました。この時に合併した長野県木曾郡山口村にあった江戸時代の中山道宿場町の馬籠宿が藤村の出生地です。

馬籠宿は江戸の日本橋から京の三条大橋を繋ぐ中山道43番目の宿場町として栄えました。藤村の生まれた島崎家は馬籠宿で代々本陣・問屋・庄屋を兼ねる家柄で、馬籠宿を取り仕切る中心的存在でした。藤村は幕末から明治への転換期の馬籠宿を舞台に父正樹をモデルにした小説『夜明け前』を著しています。現在、馬籠宿の藤村生家跡には藤村の長男楠雄氏から寄贈された資料などを収蔵している藤村記念館が建てられています。記念館には藤村の祖父母の隠居所や復元した晩年の藤村の書斎、さらに近隣には島崎家の菩提寺永昌寺があるなど、今でも馬籠宿の街並みに藤村の足跡が遺されています。

今年の9月には職員で中津川市立図書館へ視察に行き、施設や展示の様子を見学させていただきました。現在の図書館の建物は昭和54年に建てられたもので、令和5年に新しく建てられる「中津川市市民交流プラザ」に移転予定だそうです。職員のみなさんはその準備を色々とされているところでした。連携展示中は、小諸市のパンフレットなどを展示コーナーに置いていただき、当初用意したパンフレットが足りなくなってしまい、こちらから追加で送付したり、展示期間を1カ月ほど延長するなどとても好評だったそうです。今回の中津川市とのご縁を活かして、12月にはこもろのひろばで『夜明け前』の世界と題して企画展示を実施しました。小諸での藤村作品といえば『千曲川のスケッチ』のイメージが強いですが、ぜひこの機会に他の藤村作品にも触れてみてください。

中津川市以外にも、晩年に藤村が住んだ神奈川県大磯町など藤村に関係のある町があります。この機会に小諸以外の藤村ゆかりの地に行ってみたいですね。



こもろのひろばキャラクター
うめちゃん



・小諸図書館での展示



・中津川市立図書館での展示



・馬籠宿 藤村記念館